

平成 27 年度 上 半期 指定管理者管理運営状況シート

●施設の概要

施設名	岩野田児童センター	所管課	子ども未来部子ども支援課
所在地	岐阜市粟野東1丁目95番地		
指定管理者名	社会福祉法人 中部学院福祉会		
指定期間	平成24年4月1日～平成29年3月31日まで		
選定方法	<input checked="" type="checkbox"/> 公募 <input type="checkbox"/> 非公募		
料金制	<input type="checkbox"/> 使用料 <input type="checkbox"/> 利用料金 <input checked="" type="checkbox"/> 料金徴収なし		
指定管理委託料(年額)	15,146,742円		
施設の設置目的	児童に健全な遊びを与えて、その健康を増進し、又は情操を豊かにすることを目的とする。		
施設概要	◇構造:鉄筋コンクリート造2階建 ◇敷地面積:1,095.03㎡ ◇延床面積:532.42㎡ ◇施設内容:遊戯室、幼児室、集会室兼図書学習室、図工室、おもちゃ図書館、事務室兼静養室、駐車場		

●利用状況

		H27 上半期	H26 下半期	H26 上半期	H25 下半期	H25 上半期
利用者数 (単位:人)	来館者数	12,944	9,346	10,095	8,175	10,776
	移動児童館利用者数	1,849	1,007	1,857	939	2,010
各室稼働 状況	移動児童館実施回数(単位:回)	23	24	22	24	23
	開館日数(単位:日)	156	153	156	151	156

●業務の履行確認

区分	確認事項	履行状況
利用者サービス	①開館日・開館時間の遵守 ②適切な人員配置 ③広報の方策 ④苦情への対応 ⑤仕様書、事業計画書に基づく事業の実施	①、⑤計画どおり実施。 ②所長(嘱託職員・非常勤)、正規職員・常勤(児童厚生員2人)、嘱託職員・非常勤1人。 ③児童センターのおたより「わくわく」の発行・配布、イベントポスター掲示及びチラシの配布、報道機関への情報提供、児童館のホームページの活用。 ④苦情事例はないが、匿名の電話やメール等には臨機に対応。利用者への話しかけにより苦情やニーズを的確につかむよう心掛けている。
自主事業・提案事業	—	—
施設管理	①施設設備の保守点検の実施(仕様書別記2参照) ②施設の衛生管理に対する配慮、快適に利用できる状態の保持 ③省エネルギー並びに環境への負荷の軽減に努めること ④施設・設備・備品等の維持管理	①指定管理者(本部)連携のもとに適切に実施。備品購入・委託事業等は法人の経営する施設と一括購入及び入札をすることで経費の削減を図っている。 ②快適な環境を整備するため、職員が細やかな気配りを行った。 ③省エネ等に対する職員の意識の徹底に努めた。 ④閉館後に施設、備品等の点検を行った。
施設修繕	下記の観点からの修繕実施状況 ①迅速な修繕の実施 ②指定管理者のノウハウを生かした修繕・整備	①大規模な修繕については、指定管理者(本部)及び市に要望を提出。 ②修繕を要する事態が生じた場合は迅速に対応する。
危機管理・法令遵守	①個人情報の保護 ②非常時の対応策 ③関係法令の遵守	①中部学院福祉会岩野田児童センター管理規定に基づき、職員会議等で日頃から認識を意識している。 ②非常時対応マニュアルを整備し、毎月1回の職員間での話し合いや年2回の利用者を交えた避難訓練等に確認し合っている。 ③コンプライアンスの意識の徹底に努めた。

●利用者評価

<p>利用者アンケートの実施状況</p>	<p>平成27年9月下旬にアンケートを実施。 調査対象:①幼児クラブ参加の保護者及び来館者保護者(0歳児～3歳児の母親) ②小中学生(来館児童) 回答者数 ①幼児保護者81人 ②小中学生100人 (1年生24人、2年生7人、3年生20人、4年生9人、5年生14人、6年生17人、中学生9人)</p>
<p>利用者アンケートの実施結果</p>	<p>①幼児保護者 ○児童センターの存在を何で知ったか 友達から聞いた(25人)、近所だから(21人)、インターネットで(13人) ○児童センターを利用する目的は 主に子どもを遊ばせに(75人)、子育て仲間をつくりたい(16人)、子育ての情報交換がしたい(16人) ○リニューアルホームページを見たか 見た(51人)、見てない(26人) ○「見た」方に質問。HPの主にとどの場面を見る 行事のお知らせ(24人)、活動状況のブログ(17人) ○幼児クラブで採り上げてほしい行事は 回答 ボール遊び(50人)、リトミック(48人)、体操(47人)、粘土遊び(36人)、シャボン玉、手遊び(32人)、絵本(30人)、その他:幼稚園訪問、人形劇鑑賞、遠足、紙芝居、ゲーム、スタンプ遊びなど ○職員の対応について、態度やサービスは行き届いているか ・いつも笑顔で優しく親切。・子どもと遊んでくれる。・声かけが優しい。 ②小中学生 ○遊びに来る目的は 友達と遊ぶ(87人)、ヒマ・なんとなく(17人)、友達を見つけに(8人)、先生と遊ぶ(6人) ○児童館ではどんな遊びが楽しいか・好きか 夏・冬まつり、ドッジボール、カロム大会、七夕会、卓球、映画会 等(多い順) ○やってみたい遊びは ドッジボール、キッカーボード、巨大ブロック、サッカー、卓球 等(多い順) ○欲しいおもちゃや本があるか トランポリン、どんぐりゴマ、野球セット、卓球台 等(多い順) ○遊べる曜日は 土曜51人、長期休み43人、日曜41人、火曜40人 (多い順) ○児童館の職員に望むこと 一緒に遊んで(14人)今のままで満足。開館時間を長くして。大型ブロックを増やして。部屋をもっと明るく。親切で優しい。</p>
<p>利用者からの要望・苦情と対処・改善</p>	<p>アンケート結果の集計表及び回答をセンター内に掲示し、利用者に周知。行事等の簡易な要望に対しては、順次今後の活動に反映。意見、要望、問題点等の指摘に対しては、その実行が「可能、いつごろ可能」「不可能、その理由」を明確にし、下記の回答を幼児クラブ等で口頭で説明すると同時に、センター内に掲示する。 要望⇒回答 ・駐車場をもっと広くし、駐車しやすい構造に⇒できない。公式には6台、詰めれば10台以上駐車可能。他の同類施設と比べても少なくない。隣接して大手スーパーがある。買い物と共に利用すれば。 ・飲食ができる部屋がほしい。⇒学休日の正午から午後1時まで、ランチルームを設けている。哺乳などは乳児室でどうぞ。 ・園庭に遊具を増やしてほしい。⇒要望が多ければ検討したいが、その分、駐車スペースが少なくなる。 ・新しいおもちゃを購入してほしい。⇒欲しいおもちゃがあれば、申し出てほしい。職員で検討したい。</p>

●指定管理者の選定基準に基づく評価

区分	選定基準	評価項目	具体的な業務要求水準	評価		
				指定管理者	所管課	評価委員会
公平性 透明性	住民の平等利用が確保されること	平等利用を確保するための体制、モニタリングなど	・利用者アンケートの実施 ・運営委員会の開催	S	S	S
		情報公開、広報の方策	・利用者アンケート結果の公表(館内掲示など) ・広範で適切な広報活動の実施(ホームページなど)	SS	SS	SS
		区分評価				SS
効果性	事業計画書の内容が、対象施設の効用(設置目的)を最大限発揮するものであること	既存業務の改善、工夫又は新規事業等の実施	・業務改善や工夫又は新規事業(行事)等の実施	SS	SS	SS
		利用者ニーズ、苦情などの把握方法及び対応方策など	・利用者アンケートの実施 ・苦情・クレームへの着実な対応	A	A	A
		利用者に対するサービス向上の方策(窓口対応、プロモーション、設備の整備など)	・移動児童館の実施(仕様書別記3参照) ・利用者へのサービス向上に繋がる方策の実施	S	S	S
		利用促進、利用者増の方策	・利用促進や利用者増に繋がる方策の実施	S	SS	SS
		サービスの質を確保するための体制、モニタリングなど	・事務分掌等に基づく事務分担の実施	A	A	A
		施設の効用(設置目的)を最大限発揮できるスタッフの配置	・児童厚生員を2人以上、その他の職員(施設が児童センターの場合は体育指導員)を1人以上配置(このうち最低1人は常勤職員とすること)	S	A	A
		区分評価				S
効率性	事業計画書の内容が、管理経費の縮減が図られるものであること	指定管理経費の妥当性(収支計画の妥当性など)	・収支計画に沿った運営(予算書に沿った執行)	A	A	A
		管理経費縮減の具体的方策	・管理経費縮減に繋がる方策の実施(リサイクルやリユース、節水・節電など)	S	S	S
		区分評価				S
区分	選定基準	評価項目	具体的な業務要求水準	評価		
安定性 安全性	事業計画書に沿った管理を安定して行う物的能力、人的能力を有していること	組織及びスタッフ(採用予定者も含む)の経歴、保有する資格、ノウハウ、専門知識等	・児童厚生員を2人以上、その他の職員(施設が児童センターの場合は体育指導員)を1人以上配置(このうち最低1人は常勤職員とすること)	S	A	A
		スタッフ(採用予定者も含む)の管理、監督体制	・事務分掌等に基づく管理・監督体制並びに事務分担の実施	S	A	A
		スタッフ(採用予定者も含む)の人材育成の方策	・職員の資質向上を図る研修の実施又は研修会への参加	S	A	A
		リスクへの対応方策(防止策、非常時の対応マニュアルなど)	・危機管理(リスク)や非常時対応のマニュアルの整備 ・リスク防止策の実践	A	A	A
		区分評価				A
貢献性	事業計画書の内容が、岐阜市あるいは施設がある特定の地域(以下「地元」という。)の振興、活性化などに貢献できるものであること	地元の法人その他の団体の育成(一部業務の再委託先)、地元住民の活用(雇用又はボランティア等)	・地元の諸団体との連携、交流 ・地元の法人その他の団体の育成又は地元住民・高齢者・障がい者等の活用	S	S	S
		地元での社会活動等への参加	・地元の振興、活性化などに貢献できる社会活動等への参加(地元行事への参加)又は地元の団体・住民との協働事業等の実施	S	S	S
		区分評価				S

●指定管理者の取組みに対する自己評価(良否、課題と解決策など)

<p>今期の取組みに対する評価</p>	<p>時のニーズに対応した新規事業を打ち出すにはかなりエネルギーがいる。しかし、その事業が児童に受け入れられ喜ばれた時こそ、我々の本望である。他の施設には無いユニーク性、斬新性等を念頭に置いて、小さくても新規を意識して事業を推進してきた。そうした事業を推進するに当たり、同時にメディアへのPRとリンクさせながら、当児童センターの特性を打ち出してきたつもりである。</p> <p>① その一方策が、多様なメディアを活用したエリア内に留まらない全市的な広範な広報活動である。市政記者クラブを通し、マスメディアに積極的に情報提供をした。その結果、今年度は、中日新聞ふれあいタイムズ(4・8付け)、中日新聞(7・17付け、8・14付け、9・27付け計3回)等の新聞掲載の他、「宿題追い込みルーム」事業が、NHKテレビ(8・25放送、8・26放送)、東海テレビ(8・26放送)、名古屋テレビ(8・26放送)、岐阜放送テレビ(8・26放送)、中京テレビ(8・27放送)等、5社のテレビで放映され、市民からも大きな反響があった。これらが岐阜市の福祉行政のPRに寄与しているものと確信している。</p> <p>② 次に、地味で小規模ながら、注目したい今年度の新規事業を2点挙げたい。一つは高校生の手による自主企画事業「隠されたピースを探し出せ」(5月23日)を開催した。高校生3人が小学生のために初めて取り組んでくれた事業は画期的であった。昨年度末(27年3月29日)には、中部学院大生がエレキギターのソロライブを披露、センターの遊戯室は初めて小学生の異様な熱い雰囲気にも包まれたが、そのイベントに続く、高校生大学生主導の催し。</p> <p>さらに2つ目、谷汲に皇太子ご夫妻を迎える「全国育樹祭」(27年10月11日開催)の岐阜市主催のプレイベント「森林整備体験学習」(9月26日)に当センターの小学生が参画。歴史的なイベントに小さな児童センターという施設が岐阜市と積極的に関与・協力できたことを誇りに思う。他団体とのコラボ事業は、昨年度からの畜産センター公園と共催の「スプリング・オータムフェスタ」事業について2例目。</p> <p>今後も、従来の児童センターの活動の枠を超えた事業にも挑戦し続けたい。</p>
<p>前回までの意見を踏まえた取組み状況</p>	<p>岐阜市の児童館に指定管理者制度が採用されたのが平成18年4月、今年度は10年目の節目の年である。総括する時期でもある。「民間の手法を用いて弾力的かつ柔軟な施設運営が可能となり、利用者のサービス向上や地方自治体の経費節減が期待できる」として、同年に多くの公共施設に指定管理者制度が採用された。児童館という無料の福祉施設にこの制度がなじむかどうか当初議論された中でのスタートだった。そこで、個人的な見解ではあるが、指定管理者制度のこれまでの功罪について検証してみたい。結論から言えば、当児童センターの場合、この制度は極めて有効に機能していると考えられる。その一つの例を挙げると、「新しい事業の構想が生まれた時、その事業をスピーディーに具現化できたこと」である。もし、自治体運営ならば、企画から実現までの間に、発議をしてから慎重な決裁行為、手続きが厳格な予算執行行為、場合によっては住民意思の把握あるいは住民説明さらには議会対応等々、公平性を求めるが故の、多くの関門がある。それらがともすれば、実現までのスピード性に欠けることとなる。ところが、指定管理者体制では、管理者と事業担当者の距離が近く、透明な意思の疎通と堅い信頼関係の上で結論を出すのが早い。そのことが、新規事業のスピーディーな実現となる。つまり、この一例からでも「運営の効率性」「民活の導入」「経費節減」ひいては「市民サービスの向上」という指定管理者制度の“光”の面が現れていると思う。ただし、この制度には2つの“影”の面もある。1つ目は、指定期間があることによる非継続性(児童館業務は来年度28年度が期限)、2つ目は、ある程度、指定管理者の経営母体の利益を優先した事業の企画、等々である。これらは避けて通れない指定管理者制度の負の側面といえる。</p> <p>この10年。上記の手法で、新規事業を企画・実現した当児童センター独自のオリジナル事業例を次に列挙してみたい。</p> <p>① 児童健全育成事業(主に小中学生対象事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生自主ボランティア隊「V・わくわく隊」の活動(高齢者施設訪問・交通安全街頭指導、お化け屋敷の企画運営等) ・「子ども運営委員会」 ・「宿題追い込みルーム」 ・夏(ながら川ふれあいの森 天然氷づくり池の修復ボランティア)、秋(畜産センター公園)の年2回「ディキャンプ」 ・「ランチルーム」 ・畜産センター公園と共催で芝生広場での「青空児童館」 ・小学校6年生と0歳児親子の交流「赤ちゃん抱っこの会」 ・高校生の企画の自主事業「ゲーム遊び」 ・常磐小学童放課後児童クラブでの「出前児童館」 <p>② 子育て支援事業(3歳以下の親子対象の事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児クラブのカリキュラムの中で、「幼稚園の訪問・園児との交流」、「日赤職員からAEDの実践を含む赤十字幼児安全法を学ぶ」 ・子育て講座「母学キャンパス」3回シリーズ開催(中部学院大学短期大学部公開講座) ・父子対象「パパ友クラブ」 ・祖父母と孫対象「孫育て応援セミナー」 ・民間障害児通所施設の児童が定期利用 ・小学校6年生と0歳児親子の交流「赤ちゃん抱っこの会」 <p>③ 地域組織活動支援事業(主に地域に発信する事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のボランティアとコラボで運営する「夏まつり(流しそうめん)」「冬まつり(もちつき大会)」 ・ベビーカーもどうぞ本格的生演奏会「ファミリー秋のコンサート」 ・中部学院大生の演奏による「エレキギターソロライブ」 ・岐阜大生による「人形劇鑑賞会」 ・夜間に園庭で開催する「星空映画会」 <p>上記の具体的なオリジナル事業が実施できた背景には、10年間に培われた当児童センターの次の特色(カラー)が定着したからだと考える。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 大学との連携によるグレードの高い子育て支援策 ② 児童のボランティア意識の育成と実践 ③ 恵まれた自然環境を生かした児童の野外活動 ④ 地域の子育てネットワーク組織との協働によるキメの細かい子育て支援策 ⑤ 地域へ発信する各種活性化イベントの開催 ⑥ 移動児童館の拡充による遠隔住民へのサービス

今後の取組み

平成27年4月から「子ども・子育て支援新制度」がスタートした。骨子は、認定こども園関係等保育行政の新制度が中心であり、児童館行政に関しては直接触れられていない。が、あえて児童館との関わりを抜き出すと次の2点である。①「幼児期の学校教育や保育、地域の様々な子育て支援の量の拡充や質の向上を進めます。」、②「子どもが減ってきている地域の子育てもしっかり支援します。」。つまり、新支援制度における児童館に求められるものは、「地域」をキーワードにして、保育所・幼稚園・認定こども園・放課後児童クラブ・小中高校等で受け入れられている児童以外の児童(主に0歳～3歳児)及び受け入れ時間外の児童(放課後、学校の休日等)の子育て支援であり、その支援の量の拡充や質の向上ということになる。

今後、「新支援制度」の中で、児童館に求められている役割を具体化する事業として、

① 学校休日にランチルームの開設・拡充(小学生を持つ働く母親のための事業・昨年度から継続、上半期364人が弁当持参)

② ランドセル児童館の実践(放課後児童クラブと同様の色合いの共働き家庭対策)等の事業を検討したい。

いずれにしろ、児童館の本来の役割は、「児童館は児童福祉施設の中で、唯一、全ての子どもを対象にし、子どもや親が自由に利用できる施設だ。子育て家庭や子育てサークルの支援、親や子への遊びの提供、移動子育て支援事業、小中学生の居場所づくりなど多様な取り組みを展開している。最近では、児童虐待防止を推進するためには、子育て支援の地域ネットワークが必要になる。その中核となる児童館の役割はますます重要となっている。」、という位置づけである。

我々は毎日、児童館で遊ぶ児童の明るい笑顔に接している。今後、国の立ち位置がどう変わろうとも、児童館の役割を全うする努力を怠ってはならないと考えている。

●所管課の意見

広報活動について、月刊広報紙「わくわく」を担当小学校全児童に配布のほか、公民館、保育所、幼稚園、病院、コンビニなどにも配布、イベントポスター、チラシはセンター内以外にも、小学校、近隣スーパー、コンビニ、郵便局、高齢者施設、一部幼稚園、保育園等にも配布している。また、テレビ、ラジオ、新聞等マスコミにも事業の情報提供を頻繁に行っており、中でも夏休みの終わりに開催した大学生ボランティアによる「宿題追い込みルーム」については、新聞やテレビ各社に取り上げられており、マスコミを利用し児童センターの活動を大いにPRしていると評価できる。

新規事業として、かつて児童センターを利用していた高校生が企画から運営まで行った、大きな絵をパズルにしてそのピースを児童センター内に隠して宝探しをする児童向けイベント「隠されたピースを探し出せ」を開催し、参加した児童から好評を得た。

このほか、「全国育樹祭」における岐阜市農林部主催のイベント「森林整備体験学習」について、児童センターが参加者の募集に積極的に協力すると共に、児童センターの小学生ボランティアも参加し活躍するなど、地域活動についても積極的に取り組んでいる。

また、夏休みの終わりには「星空映画会」を開催し、地域の方にも積極的に呼びかけを行い、児童向けのみならず、地域も巻き込んだ活動を意欲的に展開している。

職員体制や経営状況については、問題なく運営が行われている。

●指定管理者評価委員会の意見

残ってしまった夏休みの宿題に悩む小学生を支援する「宿題追い込みルーム」の取り組みは、全国紙やテレビ等でも取り上げられるなど、高い評価を得ており特筆に値する。このようなマスコミを積極的に活用した活動内容のPRや、様々な魅力的な新規事業への取り組みが結果的に利用者数の大幅増につながっており、評価したい。

小学生・高校生・大学生ボランティアを受け入れ、活動の場を児童センターに留まらず、地域社会へと広げている。

また、決算見込書の中で人件費をわかり易く表示するなど、職員体制や経営状況の明確化に努めている点を評価したい。適正に管理運営が行われており、良好と認められる。